

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホームこころ
訪問調査日	平成 19年 8月 28日
評価確定日	平成 19年 12月 6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホームこころ
所在地	〒899-5201 鹿児島県姶良郡加治木町西別府2820番地3 (電話)0995-63-6300
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目48-13
訪問調査日	平成19年 8月 28日

【情報提供票より】(平成19年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算8.54人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年 7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2			4 名
要介護3	1 名	要介護4			1 名
要介護5	0 名	要支援2			0 名
年齢	平均 87.5 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大井病院 加治木温泉病院 桐原歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、加治木町の桜の名所である高岡公園の近くに位置し、周囲は畑に囲まれた自然豊かな環境にある。地域の方々と四季を感じられる生活を大切にしている。運営推進会議の出席者もまじえて避難訓練を実施したり、美化活動に参加するなど、地域との連携をはかっている。職員は「利用者が穏やかで、ゆっくりと過ごす普通の生活をしてもらいたい」という思いで、日々のケアに取り組んでいる。姶良、伊佐地区グループホーム連絡協議会に参加して、事例検討や情報交換に努めて、地域全体でサービスの質の向上に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価については職員に報告され、理念の見直しや薬剤の管理についてなど改善に向けて話し合いをしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員の意見を聞き、自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や行事について報告し、参加者の意見を聞きサービスに活かしている。運営推進会議の際に避難訓練を実施して、避難場所や連絡体制の確認をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を設けて意見を出せる仕組みがある。介護保険制度や利用料についても必要に応じて、臨時に家族会を開催して、家族の意見を聞き運営に反映させている。重要事項説明書の中に「苦情受付時の対応」について詳しく明記され、苦情や相談に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、回覧や総会に参加して地域の行事等の情報収集や交流に努めている。美化活動にも参加して地域の人との顔見知りの関係作りにも努めている。ホームの周囲には畑があり、農作業している方とお互いに声をかけ合うなど、地域の人との関わりを大切にしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に管理者と職員で認知症ケアに対する思いを理念としてつくりあげている。地域の方々と四季を感じながら、その人らしく安心して生活できるように支援していくことを理念に掲げている。		地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっている。現在、馴染みやすい言葉で表現できるように検討中であるので、さらに期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の生活の中で気づいた時にその場で言葉かけをしている。職員は理念を意識して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧や総会に参加して地域の行事等の情報収集や交流に努めている。美化活動にも参加して地域の人との顔見知りの関係作りにも努めている。ホームの周囲には畑があり、農作業している方とお互いに声をかけ合うなど、地域の人との関わりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員の意見を聞き、事業所の自己評価に取り組んでいる。外部評価については職員に報告し、理念の見直しや薬剤の管理など改善に向けて話し合いをしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状や行事について報告され、参加者の意見を聞きサービスに活かしている。運営推進会議の出席者に避難訓練を体験してもらい、避難場所や連絡体制の確認をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携をとり、意見交換や情報収集に努めている。困難事例や課題についても町の担当者に相談して、問題解決に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族が利用料の支払いのため、月1回は必ず面会がある。面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態について、わかりやすく説明している。金銭出納簿や領収書についても報告して、確認印をもらっている。認知症の講演会についても家族へ情報提供している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて意見を出せる仕組みがある。介護保険制度や利用料についても必要に応じて、臨時に家族会を開催して、家族の意見を聞き運営に反映させている。重要事項説明書の中に「苦情受付時の対応」について詳しく明記され、苦情や相談に対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時からの職員がほとんどである。職員が代わる場合は、利用者や馴染みの職員を交えて、引継ぎ期間を設けて関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の質の向上のために、段階に応じて研修への参加を積極的に勧めている。また困難な事例や介護の方法についても資料を提供したり、指導しながら職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良、伊佐地区グループホーム連絡協議会に参加して、事例検討や情報交換に努めている。町内のグループホームとの交流会を持ち、地域全体でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学の時にホームで過ごす機会を作っている。利用後は家族に泊まってもらうなど、相談しながら工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の困りごとや思いに寄り添いながら、得意なことを教えあい支えあっている。職員も利用者への感謝の気持ちを大切にしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや一人ひとりの行動、言動から利用者の思いや希望の把握に努めている。日々、職員や家族からの情報収集をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や職員の意見を取り入れて、MDS - HC(包括的なケアプランのツール)の様式を活用して介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティングで介護計画の点検を行い、3ヶ月に1回のモニタリングを通して、状態の変化に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院、入院時の支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じてかかりつけ医との連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。医師の意見は同行者が直接、職員に伝達している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認しながら、かかりつけ医や職員と情報交換して方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日常の声かけや支援の中で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。個人情報の保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間など、利用者のペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と献立を考えながら、本人のできること(材料の皮むき、片付けなど)を大切にして、食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めているが、利用者の希望に応じていつでも対応している。拒否された場合は家族の協力をお願いすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや新聞紙折など、得意分野で能力をを發揮してもらえるように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態(徘徊など)にとらわれ過ぎて、行事や日常の外出支援が十分ではなかったが最近庭でグラウンドゴルフを楽しむようになっている。		利用者一人ひとりの希望にそって、買い物や戸外に出る機会をつくることも検討されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員が見守りをしているが、必要に応じて近隣の協力をもらっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。非常用の食料、飲料水などの備蓄もできている。運営推進会議の際に避難訓練を体験して、現状を把握してもらっている。自治会の協力で連絡網、避難場所の確認をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に管理栄養士があり、栄養のバランスをチェックし、3ヶ月に1回かかりつけ医で栄養状態を確認している。職員は利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は自然の光が入り明るく、風通しがよい。ソファやテーブルがあり、利用者が思い思いに過ごしている。採りたての野菜を飾るなどして、季節感を取り入れている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。		